

平成27年度第2回食育推進会議 議事録

1. 開催日時 平成28年1月21日（木）13:30～14:30
2. 開催場所 天神スカイホール ウェストルーム
3. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 議題
 - ・第3次福岡市食育推進計画案について
- (3) 報告
 - ・第2次福岡市食育推進計画の最終評価について
- (4) 閉会

4. 出席委員 23名
5. 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無
6. 議事内容

事務局	【議題：第3次福岡市食育推進計画案について】 第3次福岡市食育推進計画検討部会の開催状況，第3次福岡市食育推進計画（案）概要について説明
委員	朝食の欠食児童が0%になることを目標にしているが，どういうことが原因で欠食していると分析しているのか。
事務局	欠食状況の現状値としては，小学生3.6%，中学生5.6%である。欠食の考え方としては，週の半分以上朝食を食べていない児童の割合であり，これまでもアンケート調査で，朝食を食べていない状況については確認を行ってきたが，なぜ食べていないのか，そ

	<p>の理由までの確認は行っていなかった。今後実施するアンケートにおいては、なぜ朝食を食べないのか、準備されていないのか、食べる時間がないのか等の具体的な理由についても調べていきたいと考えている。また、これまでの会議において「朝食で何を食べているのか」という確認が必要とのご意見もあったため、実際に児童にアンケートを取る際には、ごはん・パン・牛乳といったような食べた物に○を付けさせる形で具体的に把握を行ってきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>最近子どもの貧困が取り上げられ、あちこちで子ども食堂の取組みが行われている。他市の話であるが、シングルマザーの母親が、仕事を掛け持ちしないと子育てができない状況にあり、帰宅するとすぐ寝てしまい、朝ご飯を作る事さえできない。子どもは、母親のそのような姿を知っているため、無理に起こして食べさせてとは言わずに出かける。そういった事態も福岡市では起きているのではないか。欠食については、実態をよく掴んで頂き、計画の中において貧困という実態を捉えていくことも必要な観点ではないか。最近、非正規社員の7割が年収200万円以下であるとの新聞報道もあり、貧困家庭が多くなってきていることから、単に食べていない、食べる時間がないというだけでなく、食べられない実態があるということも観点に入れて、今後の食育の推進に役立てて頂きたい。</p>
<p>委員</p>	<p>私は食育推進計画検討部会の委員でもあったが、朝食の欠食については、部会の中でも議論された。お菓子やジュースを食べ飲みして「朝食を食べた」という子もいれば、パンをかじっても「朝食を食べていない」という子もいるため、食べた物についてきちんと調べ、欠食の原因まで確認していく必要があるというものである。朝食の欠食については部会の中でも深く議論されたということについてはフォローしておきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>【報告：第2次福岡市食育推進計画の最終評価について】 第2次福岡市食育推進計画の評価と考察について説明</p>
<p>委員</p>	<p>朝食を毎日食べる小中学生の割合について、「朝食喫食調査の結果は、保護者へ周知し、結果に応じた指導に活かす」とあるが、誰</p>

	<p>が指導を行うのか。また、他市と比べ、福岡市の栄養教諭充足率の現状について教えて頂きたい。</p>
事務局	<p>指導に関しては、栄養教諭と担任が連携して行うこととしている。栄養教諭の配置について、市内小学校 143 校中 55 校に配置しており、中学校については、学校所属としているが、実際には給食センターに 13 名配置している。配置数については、都市ごとにばらつきがあり、多い都市もあれば少ない自治体もあり、本市はその中でも中程度の配置数といった状況であると考えている。</p>
委 員	<p>他の県の政令指定都市や鹿児島県などと比べると、福岡市の配置数が少ないといったデータはないか。</p>
事務局	<p>具体的に各自治体と比べると、本市よりも配置の多い自治体もある。</p>
委 員	<p>食育や小中学校における指導を推進するのであれば、もう少し栄養教諭を採用するなど検討頂きたい。学校の授業を見学した際、今の子どもは、担任が止めないと 1 人で出ていき、そして戻ってくる。また、それを担任は何も言わず、本人に任せているという現状を見てきた。小学校の担任も忙しく大変であると思われるので、予算の問題もあると思われるが、栄養教諭の配置を充実して頂くと、より一層食育も進むのではないか。</p>
委 員	<p>まずは、第 3 次計画の策定にあたり、ご尽力頂いた部会の委員の皆様には感謝申し上げたい。第 3 次計画の中で、「市内産、県内産の農林水産物を買うようにしている市民の割合」を目標値に入れることは非常に大切なことであり、また、このような取組みがさらに長く、継続して効果を発揮していくためには、学校でどのように地産地消の意味を伝えていくかということも大事であると思われる。現状、地域産の原材料・食品が学校給食の中でどのように利用されているのかについて、子どもたちにどのようにして知らせているのか。また、福岡産の食材の利用の拡大について、今後学校でどのように考えていくのか教えて頂きたい。</p>
事務局	<p>子どもたちへの周知については、実際に福岡産の野菜を使用する</p>

事務局	<p>場合には、献立表に福岡産である旨記載したり、給食時間中に「今日の野菜は福岡で採れたしめじです。トマトです。」といった放送を行ったりしている。さらにコロッケ等の加工品に使用している場合は、あえて「福岡野菜のコロッケ」という名称を用い、子どもたちにストレートに分かるよう伝える努力を行っている。</p> <p>学校給食における市内産農水産物の使用割合については、具体的な数値目標を掲げている。学校給食では市内産の野菜が年間を通じて供給されているが、農産物は採れる時期・採れない時期の波が大きく、また、福岡市内では栽培に適さない野菜もある。例えば、じゃがいものように、大きな土地を利用して作られるような農産物については、本市の農地事情に適していないというのが現状である。本市は都市型農業として集約農業を目指しており、季節の野菜として葉物野菜や、軟弱野菜などを新鮮なうちに供給しているというのが本市の園芸農業のスタイルでもあります。本市で生産している主要な作物について、目標を掲げ、教育委員会やJAと協力の上、少しでも学校給食における使用割合を高めていけるよう検討を続けていきたいと思っている。</p>
委員	<p>部会においても、今後の学校における取組みやその方法について様々な意見が出されたと思うが、福岡市で教育を受けた子どもたちが、地産地消の価値をしっかりと理解し、大人になって欲しいと思うので、事務局の方でしっかりとフォローして頂きたい。</p> <p style="text-align: right;">(議事終了)</p>